

いわて東北メディカル・メガバンク機構 研究計画書（概要）

研究題目	東日本大震災被災地における社会的孤立と総死亡および脳卒中発症との関連		研究期間	2021.6.28～2024.3.31	
実施責任者	丹野 高三	所属	臨床研究・疫学研究部門		職位 部門長
研究目的	東日本大震災後、被災地では社会的孤立の割合が増加している。社会的孤立はメンタルヘルスだけでなく、死亡や心血管疾患との関連が示唆されているが、大規模災害後の地域住民を対象とした社会的孤立と総死亡および脳卒中発症との関連は明らかになっていない。本研究では、東日本大震災被災地における社会的孤立と総死亡および脳卒中発症との関連を明らかにすることを目的とする。				
研究計画概要	<p>申請者らはTMM地域住民コホート調査のベースライン調査および詳細二次調査のデータを用いて、社会的孤立と抑うつ症状との関連(Kotozaki Y, et al., 2021)や東日本大震災後の社会的孤立の変化とその関連(第68回東北公衆衛生学会, 2019)、岩手県における東日本大震災後の住居形態による社会的孤立の状況(第79回日本公衆衛生学会総会, 2020)について明らかにしてきた。</p> <p>一方、社会的孤立はメンタルヘルスだけでなく、死亡や心血管疾患との関連も注目されており、社会的孤立が死亡に影響するとのメタ解析結果(Holt-Lunstad J et al., 2015)や、社会的孤立が脳卒中の発症を増加させるとの16の心血管研究のメタ解析の報告もある(Valtora NK et al., 2016)。</p> <p>そこで、本研究では、TMM地域住民コホート調査のうち岩手分調査参加者約32,000人のコホート情報、追跡情報を用いて、社会的孤立と総死亡および脳卒中発症との関連を検討する。統計解析では、社会的孤立と死亡および脳卒中発症との関連を検討するため、Cox比例ハザードモデルを用いて死亡および脳卒中発症の多変量調整ハザード比を求める。</p>				